

## 2017(H29 シカ年度)エゾシカ個体数調整実施結果(遺産地域内)

## &lt;全体&gt;

- ・遺産地域内で合計 195 頭（オス成獣 50 頭、メス成獣 89 頭、0 歳 56 頭）を捕獲。  
（確定値：2018 年 5 月 21 日時点）
- ・冬期事業で 175 頭、春期事業で 20 頭を捕獲。

表 5-1-1-1. 2017 (H29) シカ年度の遺産地域内におけるエゾシカ捕獲結果(確定値)

地区名	時期	手法	捕獲結果(頭)				備考
			メス1歳以上	比率(%)	オス1歳以上	0歳(メス/オス)	
幌別-岩尾別	1-3月	囲いわな(岩尾別大型仕切柵)	1	16.7	4	1(1/0)	6
	4月	同上	0	0	2	0	2
	1-3月	囲いわな(幌別川河口)	4	66.7	0	2(1/1)	6
	1-3月	箱わな(幌別台地)	11	36.7	8	11(4/7)	30
	1-3月	箱わな(岩尾別)	7	30.4	3	13(7/6)	23
	1-3月	流し猟式SS / 誘引狙撃(待ち伏せ式)(岩尾別川河口)	14	63.6	3	5(5/0)	22
	3月	誘引狙撃(待ち伏せ式)(岩尾別台地)	5	83.3	0	1(0/1)	6
	4月	同上	1	100	0	0	1
	5月	無積雪期流し猟式SS / 狙撃(待ち伏せ式・忍び)	10	76.9	2	1(1/0)	13
			地区別 小計	53	48.6	22	34(19/15)
ルサー相泊	2-3月	囲いわな(相泊)	2	25.0	1	5(不明5)	8
	1-3月	箱わな	10	38.5	10	6(4/2)	26
	1-3月	くくりわな	22	50.0	13	9(6/2/被食-不明1)	44
			地区別 小計	34	43.6	24	20(10/4/不明6)
知床岬	3月中旬	巻き狩り(仕切柵利用)	1	25.0	2	1(転落-不明)	4
	4-5月	狙撃および忍び猟	1	25.0	2	1(1/0)	4
		地区別 小計	2	25.0	4	2(1/0/不明1)	8
		<b>総計</b>					<b>195</b>

## 1) 幌別-岩尾別地区 (モニタリングユニット S04)

- ・2011 (H23) シカ年度の個体数調整開始から 7 シーズン目。
- ・計 **109 頭** (オス成獣 22 頭、メス成獣 53 頭、0 歳 34 頭) を捕獲。
- ・過去 6 シーズンの累計捕獲数は 1,457 頭 (うちメス成獣 795 頭 ; 54.6%)。

・H29 シカ年度実行計画目標値 (約 85 頭) vs 捕獲実績 (109 頭) → **\*達成**

・第 3 期管理計画目標 (エゾシカ生息密度) : S04 の一部 (約 29.1 km<sup>2</sup>) の航空カウント発見密度が 5 頭/km<sup>2</sup> 以下 vs 1.9 頭/km<sup>2</sup> (2018 年 3 月) → **\*達成**

・第 3 期管理計画目標 (植生指標) : 段階 1~2 (1 に近い)

## 1-1) 課題

- ・シカの警戒心が更に上昇しており、従来の手法による捕獲は困難になりつつある。
- ・特にメス成獣の捕獲比率を高めるためには、待ち伏せ式誘引狙撃などの銃猟の強化や、くくりわなの再開が必要。

## 1-2) 手法別達成状況

### 岩尾別

- ・岩尾別大型仕切柵（5シーズン目）：捕獲目標（約10頭）vs 実績（8頭）
- ・岩尾別箱わな（2シーズン目）：捕獲目標（約20頭）vs 実績（23頭）\*
- ・岩尾別川河口流し猟式シャープシューティング（SS）（5シーズン目）：  
捕獲目標（約20頭）vs 実績（22頭）\*
- ・岩尾別台地誘引狙撃（2シーズン目）：捕獲目標（設定なし）vs 実績（7頭）
- ・無積雪期流し猟式SS（3シーズン目）：捕獲目標（設定なし）vs 実績（4頭）

### 幌別

- ・幌別川河口囲いわな（5シーズン目）：捕獲目標（約15頭）vs 実績（6頭）
- ・幌別箱わな（2シーズン目）：捕獲目標（約20頭）vs 実績（30頭）\*
- ・無積雪期流し猟式SS（3シーズン目）：捕獲目標（設定なし）vs 実績（9頭）

## 2) ルサー相泊地区（モニタリングユニット R13）

- ・2009（H21）シカ年度の個体数調整開始から9シーズン目。
- ・**計78頭**（オス成獣24頭、メス成獣34頭、0歳20頭）を捕獲。
- ・過去8シーズンの累計捕獲数は801頭（うちメス成獣410頭；51.2%）。
- ・H29シカ年度実行計画目標値（約80頭）vs 捕獲実績（78頭）→ **ほぼ達成**
- ・第3期管理計画目標（エゾシカ生息密度）：R13の一部（約24.7km<sup>2</sup>）の航空カウント発見密度が5頭/km<sup>2</sup>以下 vs 1.9頭/km<sup>2</sup>（2018年3月）→ **\*達成**
- ・第3期管理計画目標（植生指標）：段階1～2（1に近い）

### 2-1) 課題

- ・くくりわなによる捕獲が好調（メス成獣の比率も高め）だったが、捕獲個体がキツネによる捕食を受ける状況が複数回発生。
- ・利活用施設の受け入れ・運搬能力の問題。捕獲個体の一時保管施設の確保。
- ・道道を通行止めにした流し猟式SSの再開が可能なか。

### 2-2) 手法別達成状況

- ・相泊囲いわな（4シーズン目）：捕獲目標（約30頭）vs 実績（8頭）
- ・箱わな（1シーズン目）：捕獲目標（箱・くくり計で約20頭）vs 実績（26頭）\*
- ・くくりわな（2シーズン目）：  
捕獲目標（箱・くくり計で約20頭）vs 実績（44頭）\*

- ・ 流し猟式 SS : 捕獲目標 (約 30 頭) vs 災害復旧工事のため実施できず

### 3) 知床岬地区 (モニタリングユニット M00)

- ・ 2007 (H19) シカ年度の個体数調整開始から 11 シーズン目。
- ・ 計 8 頭 (オス成獣 4 頭、メス成獣 2 頭、0 歳 2 頭) を捕獲。
- ・ 過去 10 シーズンの累計捕獲数は 861 頭 (うちメス成獣 464 頭 ; 53.9%)。
  
- ・ H29 シカ年度実行計画目標値 (約 20 頭) vs 捕獲実績 (8 頭) → **未達成**
  
- ・ 第 3 期管理計画目標 (エゾシカ生息密度) : M00 (約 3.2 km<sup>2</sup>) の航空カウント発見密度が 5~10 頭/km<sup>2</sup> 以下 vs 12.4 頭/km<sup>2</sup> (2018 年 3 月) → **未達成**
- ・ 第 3 期管理計画目標 (植生指標) : 段階 2~3 (全体にまだ 2 に近い)

#### 3-1) 課題

- ・ シカの警戒心が更に上昇しており、仕切柵よりも北側の巻き狩りを実施しやすいエリア (約 1.6 km<sup>2</sup>) には、日中にシカがほとんど滞留しない状況。少雪年には夜間の柵北側への流入も少ない。
- ・ 春期だけでなく、厳冬期 (流氷期) も上記と同様の状況。人員輸送のヘリコプターが何度も往復する間に、当初は柵北側にいたシカも、南側へ逃走してしまう。
- ・ 一方で厳冬期の夕方に、文吉湾の南側の台地上草原 (仕切柵より南側) にメス成獣主体の約 30 頭の群れの出現が確認された。
- ・ 仕切柵より南側のエリアでの捕獲強化が必要。特にメス成獣の捕獲比率を高めるためには、待ち伏せ式誘引狙撃の導入、仕切柵の文吉コラル部の囲いわなへの改造工事 (自動捕獲装置の利用可)、シカ道へのくくりわなの設置が必要。その場合、流氷期に現地に数泊する必要あり。

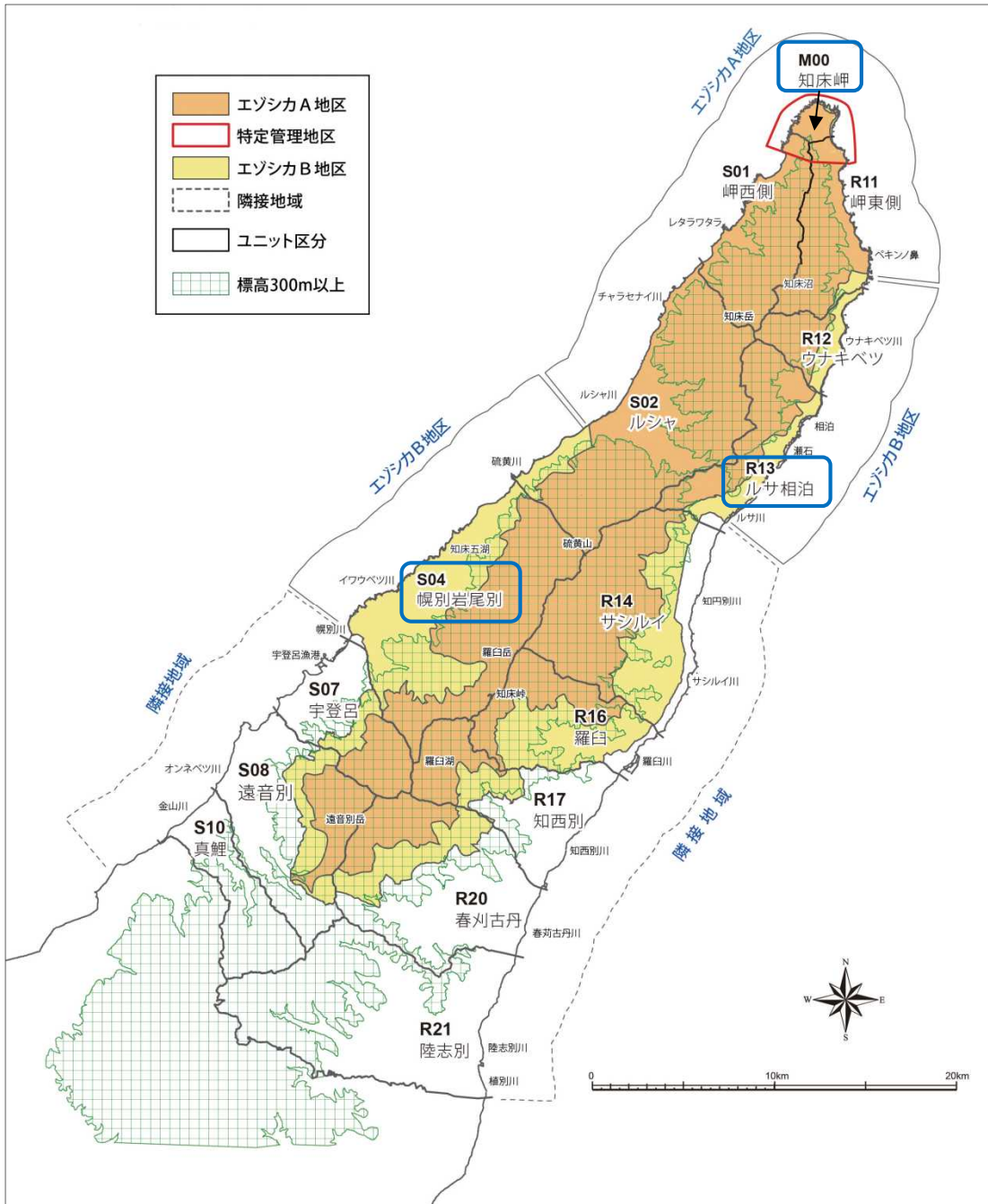


図 5-1-1-1. 知床半島エゾシカ管理計画に係るモニタリングユニット図.

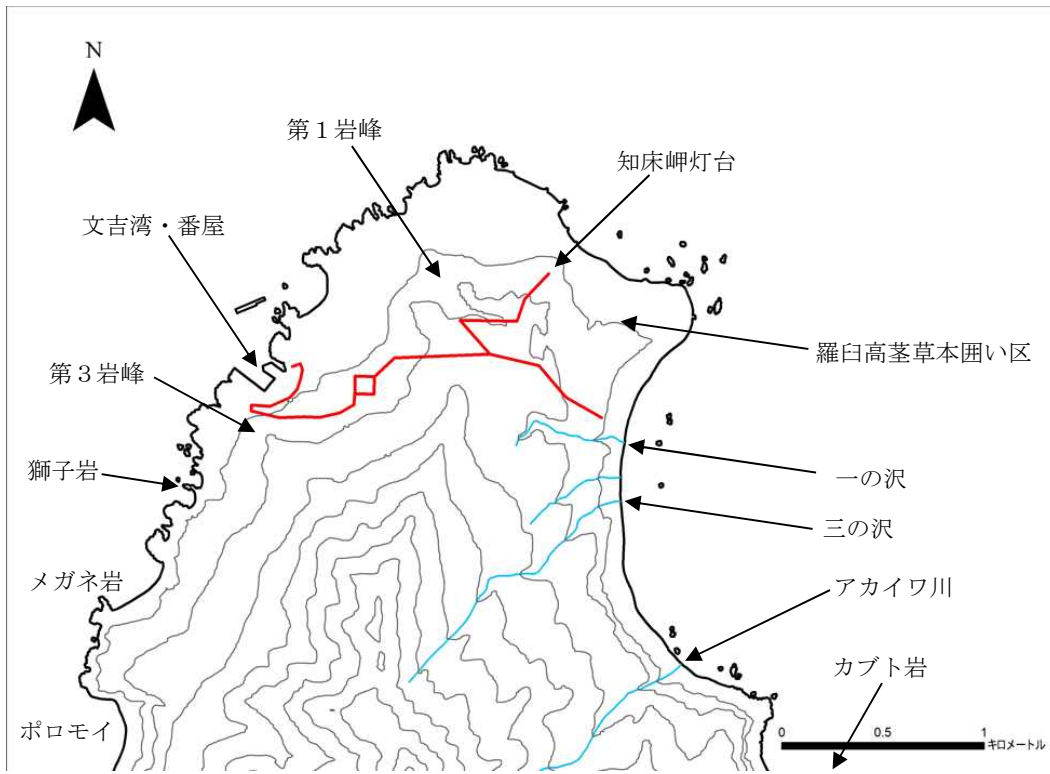


図 5-1-1-2. 知床岬先端部の地図 (赤線が捕獲補助用の仕切柵).